

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年8月25日 午後2時～4時
会 場 滝集会所（滝自治会）
天 気 晴れ

参加者 49人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆東日本大震災の時の震度6が最近起きた地震の中での最高震度だと思うが、ふじみ野市における最近の最高震度はいくつか。
- ☆やはり3.11の時が最高であり、震度4.3だった。近隣と比べると常に震度0.3～0.5程度低めの発表になっている。これは、市役所敷地内に県が設置している震度計の数値によるものであり、県が瞬時に状況をキャッチして報道している数値である。関東大震災の時の記録がきちんと残っている訳ではないが、恐らくあの時は震度5弱程度ではなかったかと思う。
- ◆震度は防災無線で流しているのか。
- ☆流していない。
- ◆避難を促すような放送内容は流しているか。
- ☆流してはいないが、12月2日の防災訓練の際には地震が発生した旨のアナウンスを最大音量で流す。それが、訓練スタートの合図になり、皆さんに実際の避難行動をとっていただく。
- ◆ヘリコプターのヘリポートはこの地域は備えられているか。
- ☆明日も2市1町の合同防災訓練を行うが、ヘリコプターの出動は予定していない。このエリアは富士見市に消防訓練場があり、ヘリポート整備がされている。また、ドクターヘリと救急車との連携はとれている。
- ◆人は、のど元過ぎれば何とやらで、皆の意識が段々と3.11の発生時とは違ってきていると思う。そんな中で、ハード面・ソフト面両方大切だと思うが、特にソフト面についての意識啓発が必要ではないか。怖いのは火災だと思う。火災防止のPRを積極的に行って欲しい。
- ☆地震がいつ起こるかによって被害状況は大きく変わると思う。季節によっても時間帯によってもその状況に応じた安全の確保策があると思うので、まず、皆さんには自分の身の安全を確保できる場所に移り、身を守っていただきたい。その安全を確保する場所は必ずしも避難所であるとは限らないので、普段からどんな場所が安全なのかについて、意識を高めておいてもらいたい。そして、身の安全を確保した後、共助という部分での助け合いに取り組んでいただきたい。

◆かつて、中央公園には被災時に使うものが埋めてあるという話を聞いたことがあるが本当か。それとこの地域の心配なところは水害。昭和 57 年 9 月に、滝・中丸地域は大変な思いをした。人によっては低いところに住んでいるのが悪いなどと言う人がいるが、この地域に居を構えて生活している身とすれば、雨の恐怖がついてまわるのは大変なこと。中学の校庭が遊水池になっていたり、河川敷の話など聞くが、現在はどんな対策がとられているのか。

☆福岡中央公園内に貯水槽が埋設されており、随時水が循環している状態になっている。水質検査も毎年行っているので、被災時についてはある程度の飲料水確保という役割になっている。水害については、福岡中学校が遊水池となっているので当時よりも整備は進んでいると思う。河川敷については、あっても支障が無いものだけが設置されていると考えてもらっていいと思う。近隣でも寺尾などの遊水池対策により新河岸川エリアの治水対策は図られている。

◆水道工事について、ここ 10 年来毎年 3 月になると道路を掘り起こしているが、いったい何年計画でやっているのか。

☆このところガス工事が多いのは把握しているが、水道事業については耐震性のある水道管に取り替えているのでその影響かもしれない。調べて後日、お答えしたいと思う。しかし、ガス工事と水道工事は同時に行うよう指導していきたい。

◆大震災が来たら消防、役所、警察等は、あてにはできないと思う。最終的には地域の人たちが震災に感心を持って、いざという時にその知識を活かして助け合うことができるかが肝心だと思う。それには少数精鋭ではダメで、大きな力の継続的な結集が必要である。これらを備えることによって、その地域には安心感が生まれ、心の豊かさに繋がっていくのではないか。その中で役所への信頼感が高まっていくものと思う。先日、高齢者の方々と、水、乾パン、缶詰等の備えがあるのかについて聞いてみたところ、半分程度の方々についてはその用意がされていた。が、半分は用意していないのが現状だった。実際、震災が起きた時、どこに行きどういう行動をとったらいいか理解していない人が半数以上いた。これには日頃からの意識付けや訓練が本当に大切であることを感じた。また、家屋の倒壊による被害がとても心配で、相当数の被害者が出るのではないかと思っている。対策としては元気な人達が 1 人や 2 人いても無理な話だと思うので、ジャッキを用意してもらいたい。ジャッキの設置を徹底してもらいたい。これが、火災による死者や圧死による死者を出さないポイントになると思う。

☆阪神淡路大震災の経験を踏まえても、ジャッキやバールの有効性は叫ばれている。家屋等の倒壊により身動きが取れない状態のまま、火の手があちこちで上がり命を落とされた方が大変多くいらっしまった。あの時は垂木一本あれば違ったという話もある。先ほど話に出ていたが、皆さんの震災に対する意識が段々と薄れてきている中、家具の転倒防止などの措置をとられている方はどれぐら

いいらっしゃるだろうか。併せて、逃げることを考えれば、枕元に下足の用意を常にしておくのも有効な手段だと思う。

◆車用のジャッキも役に立つので、近所の修理工場にも既に協力依頼はしている。連携はとっているのでもよろしくお願ひしたい。

☆市が締結している災害協定のことについては、遠隔地からの応援を待つということで、いずれも県外であり、栃木県日光市、山梨県甲斐市、長野県飯田市と既に協定を結んでいる。今後は更に群馬県の安中市とも協定を結んでいく予定である。また、先ほどもお話したが、地震が起こる時間帯によっては自宅に居るとは限らない。出先でもどんな行動をとれば良いかについて、日頃から意識を高め考えておいて欲しい。出先にいても、まずは身の安全の確保が第一の行動である。

◆3.11の際には津波による被害が甚大であった。新河岸川と津波との関係はどんなものか。

☆東京湾に津波が起こると荒川への影響が及ぶものと想定できるが、これについては、国で現在検証を行っており、冬頃にはその検証結果が明らかになる予定である。ふじみ野市のハザードマップでは、3日間大雨が降り続き、総雨量が548mmに達した場合について、この当たりの浸水状況を50cmと想定している。ただ、これは200年に一度あるかないかの想定である。また、これに伴って荒川が氾濫した際のこの辺の被害は（集会所付近から東側）2m～5mを想定している。その時には当然、避難勧告を出すことになる。

◆最低3日間という言葉がよく出てくるが、3日たてば水や電気などインフラが整うのか。

☆まずは最低限、3日間は自力で頑張りましょうというメッセージである。地元の指定職員は役所には参集せず、まず地元の避難所に向かうことになっている。他の職員についても3日間のうちには参集してくることを計画しており、初動の72時間を自力で頑張っていれば、外からの支援を受けられる状態になるという想定である。食糧面についても、3日間をどう乗り切るかという中で、一日2食を想定し、一日は役所で、2日目は県で、3日目は皆さんのご家庭にストックされている食糧という内容になっている。

◆防災用具について、福岡小学校にあるというのは聞いているが、地域の皆さんはその内容についてどれだけ知っているのか不安である。中身を見せていただく事なども可能か。

☆地域独自でそのような事業を行う際には、市からも出向き防災倉庫についての説明などもさせていただきたいので、遠慮なく依頼してもらいたい。12月2日の防災訓練でも、避難場所を知っていただくのが大きなねらいであるが、実際避難場所まで歩いていただく際にも震災時を想定して電柱などの確認をしてもらいながら、危険箇所の想定もしてもらい必要がある。その時には、防災倉庫の中身も皆さんに見ていただきたい。

- ◆先ほど公園に埋設されている貯水槽の話が出ていたが、停電してしまったとしてもそれは使えるのか。
- ☆発電機を備えており大丈夫である。また、手動のポンプも備えられている。防災倉庫の中の粉ミルク等についても、無駄にしないよう消費期限前には市内の保育園などで使うようにしている。防災倉庫の中身を充実させるのも皆さんの税金で行っているのだから、無駄使いとならないよう有効な手段を講じている。

先ほどの貯水槽の話について補足させていただきたい。この貯水槽の水については、震度6強の地震が起きたとき、一日を経過しても自宅に帰れない人が市内に11,363人想定されており、この方達への供給を想定しているものである。市内における断水人口は47,000人となっているが、この人数すべてをカバーできるものではないため、皆さんの日頃からのストックによる自助努力をお願いしたい。
- ◆福岡小学校に井戸があるのはどのように活用されるのか。
- ☆生活用水としては使用できるが、飲料水としてではない。この他、市内の揚水組合とも災害時における協力協定を結んでいる。
- ◆水道管について、大地震の際にダメになってしまうところはあるのか。
- ☆昭和38年頃から水道事業を始めたので、初期のものについては50年近く経過していることもあり、だいぶ老朽化しているものとする。徐々に耐震性のある水道管に交換している状況である。
- ◆防犯メールでいろいろな情報が流れてくるように、メールを活用して震度などを配信したらどうか。
- ☆震度3以上の情報提供は行っていくようにしたい。
- ◆自治会でHPを立ち上げるのも有効な手段だと思うが、その際、市から援助（協力）してもらえるものか。
- ☆ふじみ野市のHPの閲覧状況から見ても、なかなかその有効性については難しいところがある。ふじみ野市における65歳以上の方は23,000人を超える状況になっていることから、その効果について、期待はなかなかできないのではないかと。
- ◆戦時中に火工廠が福岡中学校に造られた所以は、この地域の地盤がしっかりしているとのことだった。そして、雨対策についても新河岸川や不老川の川幅など大きく変わり、かつての状況とはだいぶ変わってきたと思うので、そんなに心配しなくても大丈夫だと思う。